

マレーシアの中等学校における日本語学習者が日本の高校訪問によって得たモチベーション
– School Students’ Motivation Gained from Japanese School Visit–

ジャミラ・モハマド (マラヤ大学)
ターライベク・ムサエフ (マラヤ大学)

マレーシアの中等学校で日本語を学ぶ生徒のモチベーションとしては、日本のポップカルチャーに興味があるという理由がよく知られている。学習者にとってモチベーションは大変大事なもので学習を維持するのに欠かせないものである (Hall 2011, Dornyei 2005, 森本 2014)。

本稿では、日本の高等学校への学校訪問に参加したマレーシアの高校生 (以下、生徒) の学習へのモチベーションの変化について報告する。生徒のモチベーションの変化を調べるため、日本の学校訪問へ行く前と行った後で、アンケート、及びインタビューでの調査を行った。

生徒は計 14 名で、内訳は Form 5 が 11 名、Form 3 が 3 名である。費用は主に生徒の保護者が負担した。一部、スポーツデーや文化祭などで生徒が自分たちで物品を販売して得た収益も使用された。

この生徒たちは 2019 年 3 月 18 日から 25 日まで日本に行き、19 日・20 日に茨城県にある竜ヶ崎第一高校を訪問した。竜ヶ崎第一高校は、Super Science High School (以下、SSH) と呼ばれる学校で、文部科学省が科学技術や理科・数学教育を重点的に行う高校として指定した高校の一つである。訪問目的は文化交流ではなく、生徒は丸 1 日、日本の生徒と共に学校で過ごし、日本の学校での生活を体験することで、あらゆる面からの学びを得るということである。

アンケート調査は、以下の 6 つの項目について記述形式で行った。(1) 日本語を選択科目として選んだ理由、(2) 日本語を習う目的、(3) 日本語を使用する場面、(4) 日本の学校訪問でしたい・得たいこと、(5) 高校卒業後、日本に留学したいかどうか(6) 将来日本と関係がある進路を選ぶかどうかである。また、インタビュー調査の項目は、(1) 日本の学校訪問へ行って、習ったことやよかったこと、(2) 日本の学校訪問へ行く前と行った後の日本語学習に対する意欲の変化についての 2 点であった。

調査の結果から分かったこと；

・アンケート調査より；

1) 学校訪問の前と比べて、学校訪問の後は、日本語を使う目的の項目が増えるという傾向が生徒全員に見られた。特に「日本人の友達と話すため」という目的が目立った。

2) 学校訪問の前には、高校卒業後、日本に留学したいと考えていた生徒は 1 名だったが、学校訪問の後は、6 名に増えた。

・インタビュー調査より：

3) 日本の学校訪問では日本人の生徒とともに授業を受けたが、日本語があまりわからないため、授業が殆ど理解できなかった。日本語がわかっていたらもっといろいろ勉強できたと感じた生徒が殆どだった。

4) 日本のSSHの設備や勉強内容に関心を持ち、日本の生徒ともっと交流して、いろいろ知りたいと言っていた生徒が多かった。

5) 日本の学校訪問では生徒が放課後の部活にも参加したが、日本人の生徒が勉強以外に部活にも真剣に取り組んでいたことがわかって、自分もそうしたいと述べた生徒が半分いた。

6) 生徒全員が、日本に行って学校訪問をしてから、日本語にさらに興味が深まり、上手になりたいと思ったと答えた。

上述の通り、日本の学校訪問は日本語を学習する生徒に大きなモチベーションの向上をもたらすことが分かった。そのため、ぜひ多くの学校に実施することを強く勧めたい。確かに、日本の学校訪問の計画や実行は、準備も、金銭的にも大変ではあるが、方法はいろいろあると思われる。例えば、スポンサーを探すことや文化祭などのイベントでの活動でお金を集めたりすることが考えられる。また、日本の高校で行っている修学旅行のように、マレーシアの中等教育の学校でも日本の学校訪問の計画を1年生の早い段階から立て、費用も何年間かけて集めれば、日本の学校への訪問が実行できるはずだと考える。